

# ■袋井市自転車走行空間の整備効果検証

## 1.整備の概要

「自転車を活かしたまちづくり」を構築するため、袋井駅近辺の一部区間において、矢羽根(青いナビマーク)の路面表示による自転車走行空間を整備し、安全性や走行性等の効果検証を行った。

### 【主な目的】

- 小学生から高校生が通う通学路に自転車走行空間を整備することで、歩行者・自転車・自動車の安全な通行環境の確保を目指す。
- 自転車の通行ルール(車道通行が原則)を誘導・周知する。

### 【期待される効果】

- 自転車と自動車とが相互に通行ルール・マナーを守ること、歩行者の安全性の向上や自転車・自動車の走行性の向上が図られる。

### 【整備期間】

平成30年3月より順次供用開始

### 【実施区間】

- : 整備を実施した区間(県)
- : 整備を実施した区間(市)

○ : 調査実施箇所



### 【調査実施日】

- 整備効果を検証するために整備実施区間内の2地点において、調査を行った。
- 調査箇所は上記の図に示す。調査日や時間帯等の詳細は以下のとおりである。

調査日時 (整備前): 平成30年1月18日(木) 7:00~10:00  
平成30年1月18日(木) 15:00~18:00

(整備後): 平成30年3月12日(月) 15:00~18:00 ※整備後の誘導・指導があったため、朝と夕方が別日での実施となった。  
平成30年3月19日(月) 7:00~10:00

- 調査内容
- ①自動車交通量調査
  - ②歩行者・自転車通行量調査
  - ③走行速度調査

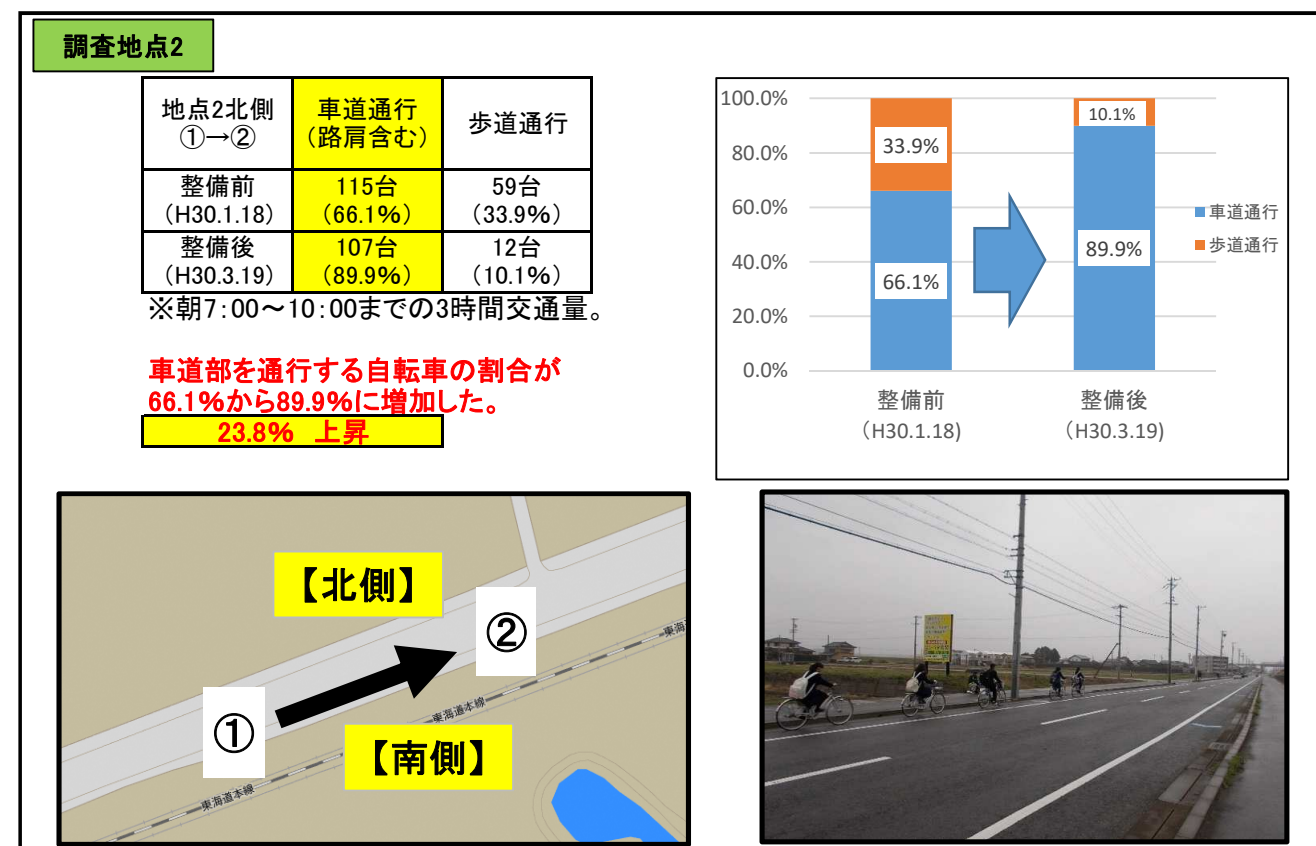
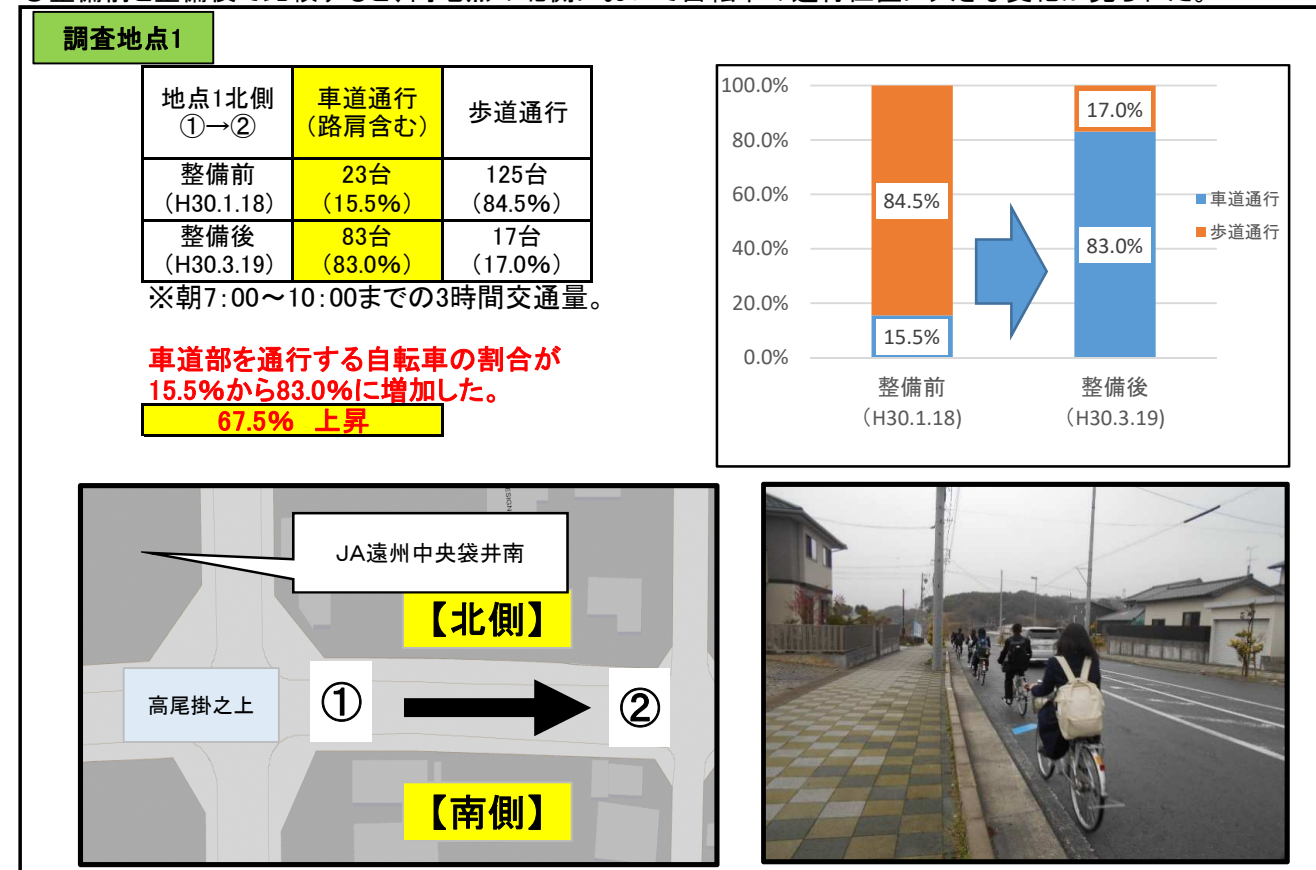
### 【アンケート調査】

- 自転車走行空間整備に係る市民意識調査を区間近辺の高校に通う生徒と、区間近辺にお住まいの住民に実施した。

## 2.整備の結果

### 【通行位置の変化】

○整備前と整備後で比較すると、両地点の北側において自転車の通行位置に大きな変化が見られた。



【通行方向の変化】

○整備前と整備後で比較すると、両地点の南側において自転車の通行方向に大きな変化が見られた。

地点1南側	順走 (左側通行) ②→①	逆走 (右側通行) ①→②
整備前 (H30.1.18)	15台 (44.1%)	19台 (55.9%)
整備後 (H30.3.19)	6台 (85.7%)	1台 (14.3%)

※朝7:00～10:00までの3時間交通量。

逆走(右側通行)する自転車が  
55.9% → 14.3%に減少した。  
41.6% 下降

地点2南側	順走 (左側通行) ②→①	逆走 (右側通行) ①→②
整備前 (H30.1.18)	26台 (49.1%)	27台 (50.9%)
整備後 (H30.3.19)	9台 (100.0%)	0台 (0.0%)

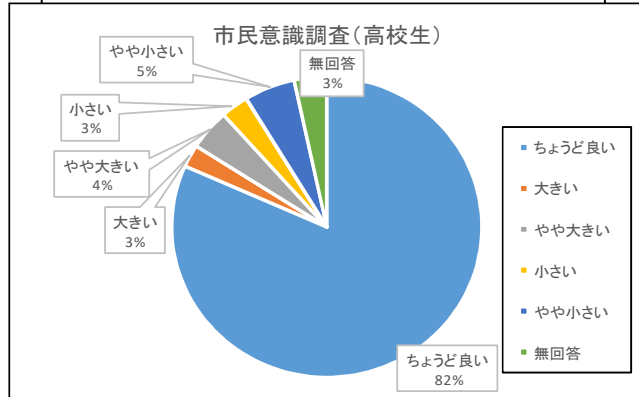
※朝7:00～10:00までの3時間交通量。

逆走(右側通行)する自転車が  
50.9% → 0.0%に減少した。  
50.9% 下降

【アンケート結果より】

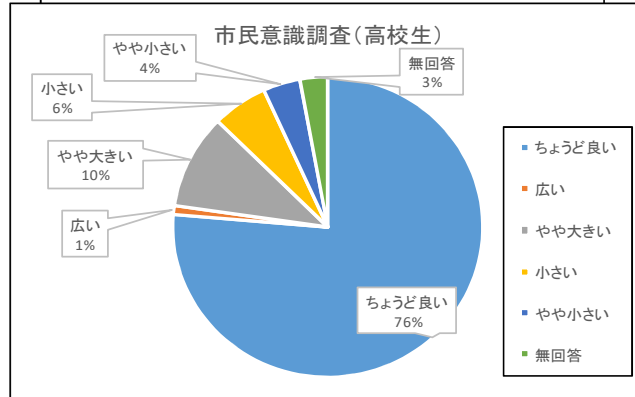
○高校生の評価は以下の通り。(回答数:207) ※全生徒に配布した為、回答率の記載なし

自転車マークや矢羽根マークの大きさについて



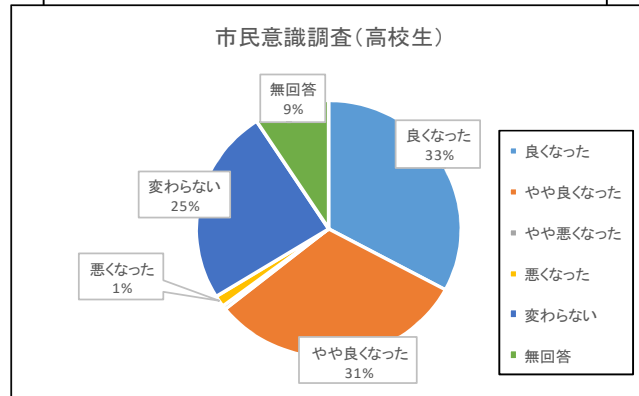
路面表示の大きさ、見やすさについては、満足する意見が82%あり、高い評価が得られた。

矢羽根マークの設置間隔について



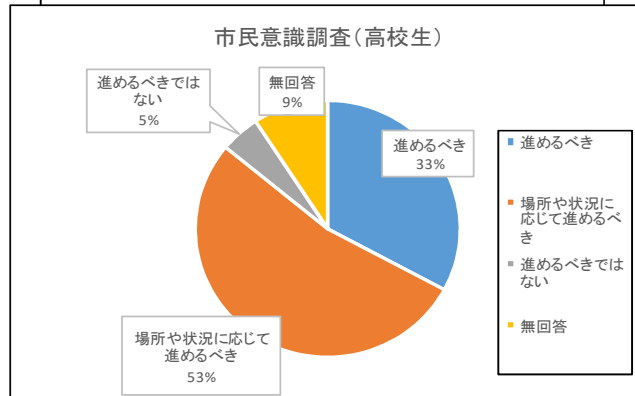
路面表示の配置間隔は満足する意見が76%あり、概ね高い評価が得られた。

歩道の安全性について(整備を経て)



歩道の安全性が整備前より向上したという意見が64%で、効果を実感していた。

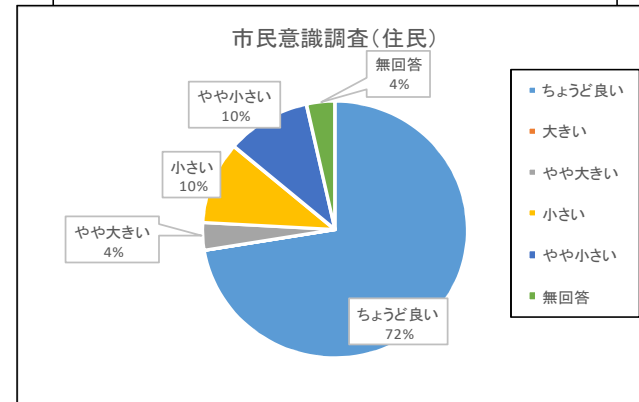
今後の整備について



「進めるべき」「場所や状況に応じて進めるべき」など、86%の人が賛同意見であった。

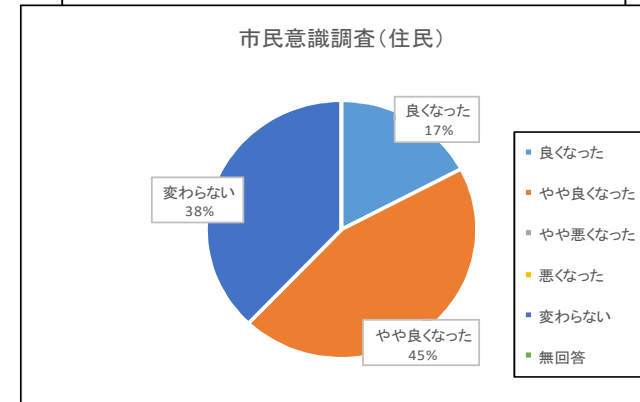
○住民の評価は以下の通り。(回答数:29 回答率:73%)

自転車マークや矢羽根マークの大きさについて



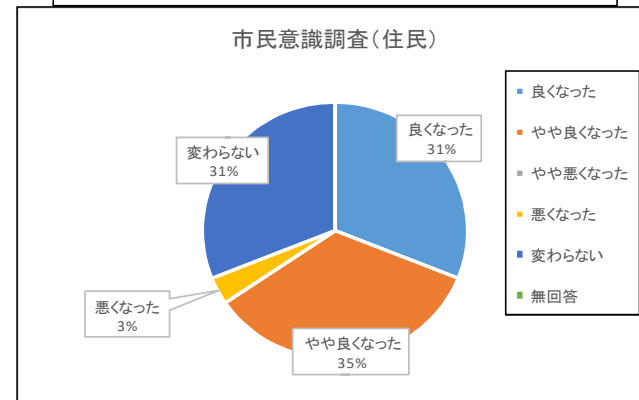
路面表示の大きさ、見やすさについては、満足する意見が72%あり、高い評価が得られた。

自転車走行マナーについて



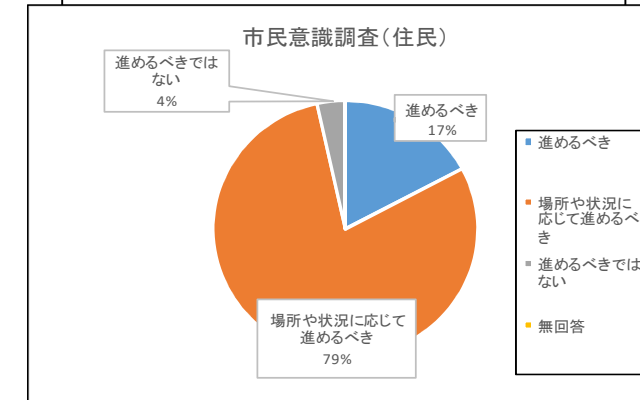
自転車走行マナーは整備前より改善されたという意見が62%あった。

整備による歩道の安全性について



歩道の安全性が整備前より向上したという意見が66%で、効果を実感していた。

今後の整備について



「進めるべき」「場所や状況に応じて進めるべき」など、96%の人が賛同意見であった。

○自由回答をまとめると、『評価する点』『課題となる点』は以下の通り。

<評価する点>

- ・歩行者の安全性面では効果的である。
- ・小学生の通学班と交錯することがなくなった。
- ・自転車の通行マナーが向上した。

<課題となる点>

- ・自転車が車道に出ることで、自動車との距離に危険や怖さを感じる。
- ・自転車の通行速度の違いから、自転車の隊列渋滞が起きやすくなる。
- ・路面表示は青色で夜見えない。

【今後の方針(案)】

・今回の調査結果は、警察が整備後に交通指導を行ったこともあり、非常に効果的な結果が得られたが、今後も持続していくために、『歩行者』『自転車』『自動車』それぞれに対して、交通マナーの習熟を図っていくとともに自転車マークの表示数を増やしたり、矢羽根の視認性を向上するため、蛍光色の使用や大きさを調整するなど今後の整備にあたっては、今回の整備区間を参考に、路面表示をより目立たせる方法を検討する。